

＜がん登録部会：今年度事業計画と評価＞

1. 沖縄県内の全国および院内がん登録、予後調査、生存率計測の実地状況を公開する。

目 標：沖縄県内の全国および院内がん登録、予後調査、生存率計測の実地状況を調査し、公開する。

実 績： 協議未実施

評 価： 1 点

次年度：全国および院内がん登録、予後調査、生存率計測の実地状況を調査し、協議会のホームページで更新する。

2. 院内がん登録をはじめるとの説明会を企画・開催する。

目 標：確実に院内がん登録が実施できるよう、がん登録をはじめるとの説明会を企画・開催する。

実 績： 協議未実施

評 価： 1 点

次年度：各施設で新がん登録を始める施設が増えることが想定されるため、県と協力しながらがん登録をはじめるとの説明会を企画・開催する。

3. がん登録部会の活動を学会報告および実績を論文化する。

目 標：毎年演題を出し、部会委員が発表する。

実 績：

1) 第 42 回日本診療情報管理学会学術大会

開 催 日：平成 28 年 10 月 12 日～平成 28 年 10 月 14 日

会 場：東京国際フォーラム

演題 1) 沖縄県院内がん登録集計データと比較した当院の子宮頸癌の傾向について

演者 1) 沖縄県立中部病院 仲嶺八紀

演題 2) 沖縄県における市民目線でわかりやすい院内登録情報の発信について

演者 2) 琉球大学医学部附属病院 高橋ユカ

演題 3) 院内がん登録集計データからみえる沖縄県のがん診療の動向と現状

演者 3) 那覇市立病院 平安政子

演題 4) 沖縄県がん対策推進計画(第 2 次)中間評価に関する沖縄県がん診療連携協議会がん登録部会の関わり

演者 4) 琉球大学医学部附属病院 仲本奈々

2) 第 75 回日本公衆衛生学会総会

開 催 日：平成 28 年 10 月 26 日～平成 28 年 10 月 28 日

会 場：グランフロント大阪

演題 1) 沖縄県がん対策推進計画(第 2 次) 中間評価のための患者・家族及び医療者アンケート調査

演者 1) 琉球大学医学部附属病院 高橋ユカ

3) 第48回沖縄県公衆衛生学会

開催日：平成28年月11日4日

会場：沖縄県市町村自治会館

演題1) 沖縄県における市民目線でわかりやすい院内登録情報の発信について

演者1) 琉球大学医学部附属病院 高橋ユカ

評価：8点

次年度：引き続き学会活動を継続し、部会事業の評価を行う。

4. 院内がん登録に関する広報活動を行うなど患者目線の情報発信を行う。

目標：多くの県民が、がん登録の情報を知ることができる。

実績：「おきなわがん情報ネット『みるん・しるん』」開設にあたり、院内がん登録データを提供、グラフの見せ方などについて提言、協力した。

評価：10点

次年度：サイトの運用開始に伴い、引き続きデータ提供やグラフの見せ方等について提言を行い協力する。

5. 院内がん登録実施施設において、院内がん登録情報を定期的に開示する。

目標：院内がん登録集計報告書の作成に協力することで、多くの県民にがん登録情報を提供する。

実績：沖縄県がん対策関連サイト構築事業が院内がん登録集計報告書を作成するにあたり、部会委員の施設においてデータ提供を承諾した。また、国立がん研究センターのがん診療連携拠点病院院内がん登録全国集計報告書や各県で作成されている集計報告書を参考に、報告書の内容修正に提言、協力した。

評価：10点

次年度：公開する院内がん登録情報について、引き続きデータ提供や提言を行い、充実を図る。

6. 院内がん登録において、予後調査を実地し(生死判明率割合9割以上)、生存率を算定する。

目標：各拠点病院で5大がんの5年生存率を算定する。

実績：3拠点病院(琉大病院、那覇市立病院、中部病院)において、院内がん登録データを用いて13部位のがんについて、施設別、部位別、ステージ別の5年相対生存率を計測した。しかし、生死判明割合が10%以上のもの、症例数が29症例以下のものについては、数値としての信頼性・安定性がないため、条件付きで平成29年3月に発行した院内がん登録集計報告書に掲載した。

評価：7点

次年度：拠点病院以外に広げ生存率の計測、公開ができるよう進める。

7. 沖縄県内で院内がん登録研修会を企画・開催する。

目標：院内がん登録に関する研修会を年に1回開催し、各施設に情報提供等を行う。

実績：第1回院内がん登録研修会を、2017年3月4日(土)に開催。国立がん研究センターの江森先生をお招きして、新しくなった院内がん登録標準登録様式と多重がんルールについてご講義いただいた。病院に勤務する事務職約100名の参加があった。

評価：10点

次年度：引き続き研修会を継続し、研修会の評価を行う。

8. 国立がん研究センターの実務初級者認定試験を受験する。

目 標：平成 29 年 3 月までに、全国がん登録実施対象のすべての病院でがん登録初級修了者が誕生する。

実 績：協議未実施

評 価：1 点

次年度：各施設の院内がん登録初級認定者数を調査する。

9. 院内がん登録データの精度分析を行う。

目 標：院内がん登録データを用いて、各施設の院内がん登録の質的精度分析を行い、各施設にフィードバックを行う。

実 績：部会委員の施設において、院内がん登録データを収集し「ステージと進展度の不一致」などの精度分析を行い、各施設にフィードバックを行った。

評 価：10 点

次年度：次年度も継続し、精度分析を行い経年変化がみられるか調査する。

10. 拠点病院においてがん診療の質の高い評価を行い、がん医療の質が向上する。

目 標：拠点病院のがん診療の質の評価を行うため Q I の測定・評価を継続的に行う。

実 績：2009 年、2011 年の胃がん大腸がんのがん診療の質指標（QI）の計測を行い、経年比較を行い、各施設の臨床医に対してフィードバックを行ってきた。今年度は 2013 年の胃がん大腸がん QI の計測を行った。

評 価：8 点

次年度：拠点病院のがん診療の質の評価を行うため QI の測定・評価を継続的に行う。

平成29年度がん登録部会

全体目標

がんにより死亡する人の減少
がんの年齢調整死亡率(75歳未満、人口10万人当たり)を平成29年度までに20%減少させる。

すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上

部会が担当する分野の課題と目標

【目標】がん対策の計画をするための基礎データが整って、活用されている

<p>中間目標 罹患数と死亡数の比が1.5～1.7。25施設でQIが測定される。</p> <p>指標 ①罹患数と死亡数の比(I/M比) ②QI(標準的な診療がどの程度行われているかの実行率)</p> <p>測定方法 ①届出数と人口動態統計の死亡数の比 ②必要な項目をカルテから収集</p>	<p>最終目標 罹患数と死亡数の比1.8～2.0。すべての施設でQIが測定され、がん医療の質の向上がはかられている。</p> <p>指標 ①罹患数と死亡数の比(I/M比) ②QI(標準的な診療がどの程度行われているかの実行率)</p> <p>測定方法 ①届出数と人口動態統計の死亡数の比 ②必要な項目をカルテから収集</p>
---	---

施策毎のアウトカム目標

<p>【アウトカム1】 沖縄県保健医療計画におけるがん専門施設で、院内がん登録が行われる。 <指標> 全国がん登録・院内がん登録実施施設数、DCO</p>	<p>【アウトカム2】 全国および院内がん登録の情報がちくじ医療機関・行政・市民に届く。</p>	<p>【アウトカム3】 登録の重要情報に欠損がない入力ができ、誤りのない入力ができている。 <指標> 5大がんステージ入力率、精度指標スコア</p>	<p>【アウトカム4】 がん診療の質が向上する <指標> QIスコア</p>
--	---	---	---

施策毎のアウトプット目標

<p>【アウトプット】 全国および院内がん登録、予後調査、生存率計測の実施調査の結果を更新し、公開する。</p>	<p>【アウトプット】 2017年3月までに、がん専門施設すべてで院内がん登録を実施する。</p>	<p>【アウトプット】 毎年演題を出し、部会委員が発表する。また、学会にて最新の情報を収集する</p>	<p>【アウトプット】 多くの県民が、がん登録の情報を知ることができる</p>	<p>【アウトプット】 それぞれが希望する形で登録情報が公開される。</p>	<p>【アウトプット】 各施設で生存率を算定し、公開する。</p>	<p>【アウトプット】 年に4回開催し、200名の実務者が参加する。</p>	<p>【アウトプット】 2017年3月までに、がん専門施設すべてで初級者認定者が誕生する。</p>	<p>【アウトプット】 院内がん登録施設すべてで、精度の高い入力がかかる。</p>	<p>【アウトプット】 拠点病院のがん診療の質の評価を行うためQIの測定・評価を継続的に行う。</p>
---	--	--	--	---	--	---	--	--	--

施策アクションプラン

<p>【施策1】 沖縄県内の全国および院内がん登録、予後調査、生存率計測の実施状況を公開する。</p>	<p>【施策2】 院内がん登録をはじめのあたりの説明会を企画・開催する。</p>	<p>【施策3】 がん登録部会の活動を学会報告および実績を論文化する。</p>	<p>【施策4】 院内がん登録に関する広報活動を行うなど患者目線の情報発信を行う。</p>	<p>【施策5】 院内がん登録実施施設において、院内がん登録情報を定期的に開示する。</p>	<p>【施策6】 院内がん登録実施施設において、予後調査を実施し(生死判明率割合9割以上)、生存率を算定する。</p>	<p>【施策7】 沖縄県内で院内がん登録研修会を企画・開催する。</p>	<p>【施策8】 国立がん研究センターの実務初級者認定試験を受験する。</p>	<p>【施策9】 院内がん登録データの精度分析を行う。</p>	<p>【施策10】 拠点病院においてがん診療の質の評価を行い、がん医療の質が向上する。</p>
--	---	--	--	---	--	---	--	--	--

ワークシート1で導き出された対策項目

<p>【対策項目1】 院内がん登録を実施するための情報提供体制の強化</p>	<p>【対策項目2】 医療機関・行政・市民への情報還元体制の整備</p>	<p>【対策項目3】 全国および院内がん登録実務者のレベルアップ</p>	<p>【対策項目4】 がん診療の質の把握</p>
---	---	---	-------------------------------------